

あいち朝日遺跡ミュージアムへ おでかけの方にお得なお知らせ

2施設来場でお得な「共通チケット」のごあんない

弥生時代 あいち朝日遺跡ミュージアム



観覧料

常設展も
観覧できます

区分	一般	大学生・高校生
個人	300円	200円
団体 (有料20名以上)	250円	150円

※学校行事(高校以下)及びその引率者、中学生以下、障がい者の方及びその付き添いの方(1名まで)は無料

- 愛知県清須市朝日貝塚1番地
- TEL/052-409-1467
- 開館時間/9:30~17:00
- 駐車場/15台
- 休館日/月曜日
- ※月曜日が祝日・振替休日の場合は、翌平日



戦国時代 清洲城

※あいち朝日遺跡ミュージアムより
清洲城まで徒歩約10分



入館料

【大人】	300円
【小人】	150円
(小中学生) ※幼児無料	

- 愛知県清須市朝日城屋敷1-1
- TEL/052-409-7330
- 開館時間/9:00~16:30
- 休館日/月曜日
- ※月曜日が祝日・振替休日の場合は、翌平日

あいち朝日遺跡ミュージアム
清洲城 共通チケット
2施設で計600円を **500円** 発券より半年間有効



古墳時代 体感!しだみ古墳群ミュージアム



展示室 入館料

【一般】	200円
※中学生以下無料	

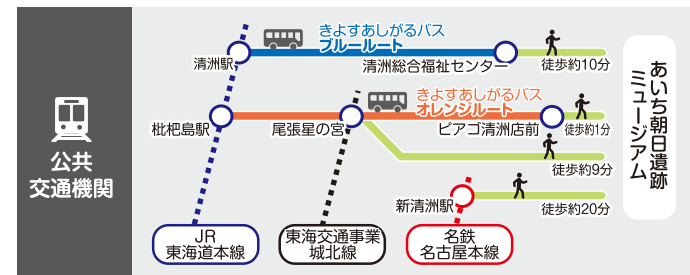
- 名古屋守山区大字上志段味字前山1367
- TEL/052-739-0520
- 開館時間/9:00~17:00
- 休館日/月曜日
- ※月曜日が祝日・振替休日の場合は、翌平日

あいち朝日遺跡ミュージアム
体感!しだみ古墳群ミュージアム 共通チケット
2施設で計500円を **400円** 発券より半年間有効



共通チケットは、各施設の窓口でご購入いただけます。

あいち朝日遺跡ミュージアム



名古屋第二環状自動車道「清洲東IC」から約1分
清洲公園駐車場もご利用いただけます。
駐車場の数には限りがあります。出来る限り公共交通機関のご利用をおすすめします。



新型コロナウイルス感染防止対策のため、入館時のマスク着用および、検温と手指消毒をお願いします。
また状況に応じて、館内の一部閉鎖および関連イベントを中止する場合があります。
詳しくは公式WEBページにてご確認ください。



朝日遺跡だより

2022年3月
vol.4

シリーズ/ミュージアム収蔵品ファイル
アカとクロがレポートするミュージアムの見所
振り返りレポート/企画展「貝殻山貝塚—史跡指定50年—」

連載/ミュージアムスタッフのこぼれ話
弥生ムラづくりプロジェクトレポート
イベントレポート 収穫祭振り返り
古代体験プログラムのお知らせ
ショップグッズ紹介
お得な共通チケットのごあんない



このコーナーでは、あいち朝日遺跡ミュージアムの収蔵品から、選りすぐりの資料を紹介していきます。

遠賀川系土器と条痕文系土器 ～対峙する西と東の土器～



遠賀川系土器



条痕文系土器



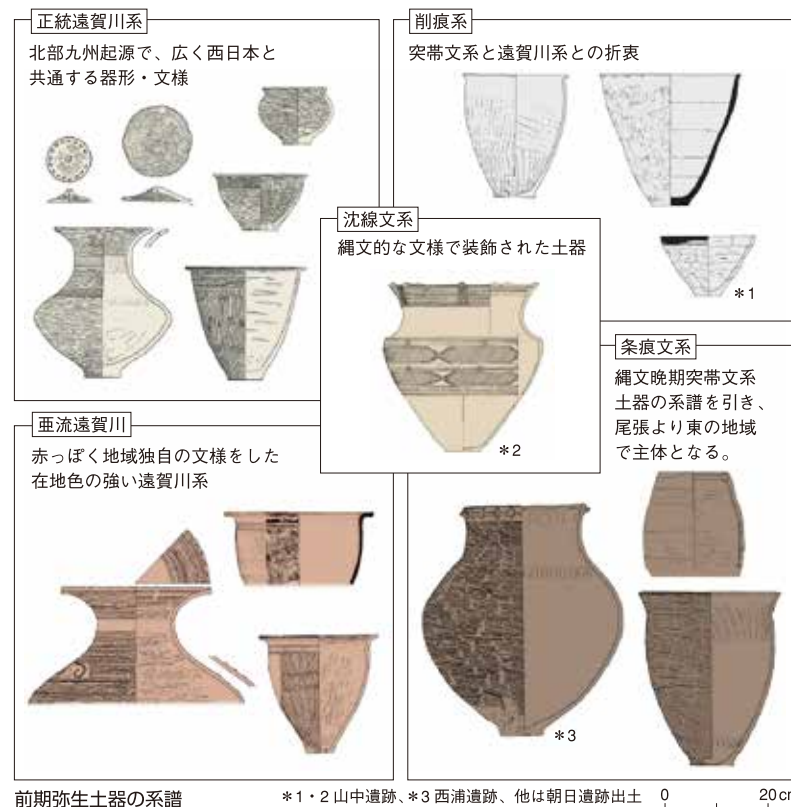
弥生時代初めの朝日遺跡では、出自の異なる複数の系統の土器が使われていました。その代表が、西日本の弥生文化に由来する「遠賀川系土器」です。この土器は、北部九州で成立した弥生時代前期の土器様式で、西日本に広く分布しています。濃尾平野は、遠賀川系土器の分布の東端となり、初期弥生文化の到達地域と考えられています。この遠賀川系土器は、さらに「正統遠賀川系土器」、伊勢地域南部との関係が強い「亜流遠賀川系土器」に分けられます。

一方、この地域より東には、在来の縄文時代晩期の突帯文系土器から派生した「条痕文系土器」が分布していました。遠賀川系土器の表面はハケやミガキなど、比較的なめらかに仕上げられますが、条痕文系土器は、植物の茎の束やギザギザのある貝殻の縁辺を用いて、深く粗い条線で器面が覆われていることが特徴です。

この他にも突帯文系と遠賀川系の折衷である「削痕系土器」、弥生時代中期以降の、縄文土器のように沈線と区画文で装飾された「沈線文系土器」などがあり、朝日遺跡では、遠賀川系土器を中心に、さまざまな出自の人々によって集落が営まれていたようです。

朝日遺跡は、西日本から伝えられた弥生文化と在来の伝統的な文化が接触し、新たな地域社会、文化を生み出していった場所でもあったのです。

(原田 幹)



前期弥生土器の系譜 *1・2山中遺跡、*3西浦遺跡、他は朝日遺跡出土 0 20cm



朝日遺跡マスコットキャラクター「アカ」「クロ」

アカとクロがレポートする ミュージアムの見所 (屋外編その3)

学芸員に聞こう!

Q1 田んぼの近くの壁に写真が貼ってあるよ?

これは、集落をめぐる環濠を発掘調査したときの地層を、そのまま写真にとって展示してあるんだ。何か白い破片がたくさん重なっているように見えるけど、よく観察すると、全部が貝殻ということがわかるよ。こんなふうには貝殻がまとまって出土する場所のことを「貝塚」と言うんだ。



貝層の断面表示

Q2 貝塚ってどんなものですか?

昔の人たちが貝を食べたあとに捨てた殻が積み重なったものだよ。貝殻のほかに、シカやイノシシなどの動物や魚の骨、割れた土器の破片や石器などが混ざっていることもあるよ。朝日遺跡では、貝殻山(第1貝塚)のように、小山のようになっていたり、谷や環濠の中に捨てられた貝が層のように重なっている場所もあるよ。



貝層の復元

Q3 貝塚からどんなことがわかるの?

貝殻には「カルシウム」という成分がたくさん含まれていて、これは動物の骨や角とも共通している。だから、普通は土に埋まると腐って無くなってしまおうような、骨や角で作られた製品も、貝塚の中では、そのまま残されているんだ。これを調べると、釣り針やアクセサリなど、土器や石器以外に当時の人たちが使っていた様々な道具を知ることができるんだ。貝塚からは、埋葬された人の骨が出土することもあるから、弥生時代の「人」についても研究できるよ。



貝層の復元

Q4 海から離れているのに貝塚があるんだね。

朝日遺跡のある場所は、今では海から遠く離れているけど、弥生時代は海岸に近かったようだね。それに、貝殻を調べてみると、ハマグリやカキなど海にいる貝と一緒に、シジミの貝殻も混ざっている。シジミは川の下流で、海水が混ざるような場所で採れることから、当時の朝日ムラは、川が流れ込んでいる海岸に近い場所にあったようだね。

Q5 それにしても貝殻が本物そっくりだね。

実は、貝塚の復元展示には、発掘調査で出土した、2000年前の本物の貝殻を使っているんだ。遺構の展示解説には書いてないから、このレポートを読んだ人だけの特ダネだね。家族の人や友達と一緒に見学することがあったら、豆知識ということで、ちょっと自慢してみてね。



梅本博志(あいち朝日遺跡ミュージアム学芸員)



展示の様子



骨製刺突具 貝殻山貝塚 (愛知教育大学蔵)



1971年の発掘調査風景

企画展 振り返りレポート

企画展

「貝殻山貝塚—史跡指定50年—」 会期 2022年1月22日(土)～3月13日(日)
会場 あいち朝日遺跡ミュージアム本館・企画展示室

貝殻山貝塚(清須市)は、朝日遺跡で最初に発掘調査が行われた弥生時代の貝塚です。この周辺は、弥生時代前期に、朝日集落で最も早く人々が暮らし始めた場所でもあります。

朝日遺跡のスタート地点ともいえる貝殻山貝塚は、1971(昭和46)年に国の史跡に指定され、昨年で50年を迎えました。本企画展では、史跡指定以前の発掘調査による貴重な出土品を取り上げるとともに、近年の調査研究で明らかになった貝殻山貝塚周辺の最新の成果を紹介することで、改めて貝殻山貝塚の研究史上の位置付けとその重要性を捉え直すことをねらいとしました。

貝殻山貝塚は、昭和4(1929)年に行われた発掘調査によって、弥生時代の貝塚であることが世に知られるようになりました。昭和20年代には、愛知学芸大学(現愛知教育大学)、名古屋大学が発掘調査を行い、カキ、ハマグリなどの貝層、弥生時代前期を中心とする土器が出土しました。これらの調査で確認された貝塚最下層の土器群は、東海地方の弥生土器として

最も古い様相をもつことが明らかになりました。

現在、これらの出土品は、愛知教育大学附属図書館、名古屋大学博物館に保管されています。本展示では、これら貴重な出土資料を借用し、125点の土器、石器、骨角器、獣骨等の自然遺物を展示しました。おそらく外部の施設において、貝殻山貝塚の資料がこれだけ展示されたのは、初めてだったのではないのでしょうか。

貝殻山貝塚は、その後昭和40年代に計画された土地改良工事をきっかけに、愛知県と清洲町(現清須市)による発掘調査を経て、昭和46(1971)年に国の史跡



特別企画展ポスター

に指定されました。このときの発掘調査は、遺跡の保存と開発との難しい調整に迫られ、時間的、体制的にも厳しい状況下で進められました。一方、新たに判明した貝塚や土器、骨角器などの出土品、愛知県で初めて出土した弥生時代の人骨など、貴重な発見も相次ぎました。企画展パンフレットでは、当時県の文化財担当として第一線で調査に当たられた柴垣勇夫先生に、発掘調査から指定に至る当時の緊迫した様子を「史跡指定50年『50年前の調査に携わった人々』」として寄稿していただきました。

貝殻山貝塚は、尾張地方最古の弥生遺跡として、

また、西日本を中心とする前期弥生文化の東限の遺跡として注目されてきました。近年の発掘調査では、貝殻山貝塚の周りを弥生時代前期の環濠がめぐっていたことが明らかになりました。この環濠から約40m南で見つかった人骨の年代測定、DNA分析が行われ、弥生時代初期の渡来系弥生人である可能性が指摘されるなど、新しい研究成果が示されています。今後の調査研究の進展により、朝日遺跡に最初に移り住んだ人々やその生活の様子がさらに具体的に解明されていくことでしょう。

(原田 幹)

講演会

「貝殻山貝塚資料館から朝日遺跡ミュージアムへ～50年前の調査と関わった人々～」

- 講師：柴垣勇夫(元愛知淑徳大学教授)
- 日時：2月12日(土) 13:30～15:00
- 会場：あいち朝日遺跡ミュージアム本館・研修室



講座ヒストリーカフェ

「貝殻山貝塚に暮らした人々」

- 講師：原田幹(本ミュージアム学芸員)
- 日時：2月20日(土) 13:30～14:30
- 場所：あいち朝日遺跡ミュージアム本館・研修室



原田学芸員による展示解説動画をYOUTUBEで公開中!

館長の伊奈です。当館も開館2年目を迎えました。未だ新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中、多くの皆様に支えていただき感謝しております。

さて、この季刊誌の創刊号 (7月号) に私の経歴を載せましたが、私は元は高校の教員です。それが何故か突然、遺跡の発掘調査員として派遣されることになったのです。考古学の知識は皆無。教員という仕事への未練。しかも年齢は40代半ば。戸惑い悩む日々が続いたある日、派遣前に教えていた生徒が会いに来てくれました。その生徒から「遺跡の発掘ができるなんて、先生はラッキーだよ! 誰でも就ける仕事じゃないでしょ!」と言われました。どちらが先生だか…。しかし、この一言にはハッとさせられました。そしてこの後、人生を左右するような「出会い」があったのです。担当する遺跡で古墳の溝を掘っ

ていると、緑色に美しく輝く^{くだたま}管玉*が出土しました。先輩の調査員から「この管玉は、古墳時代に誰かが触って以来誰にも触れられず、1500年の時を経て、次に手にしたのがあなたなんだよ!」と言われた時の感動は今でも忘れられません。その時以来、遺跡発掘の魅力 (魔力?) に取りつかれてしまいました。戸惑いや悩みはどこかに吹き飛んで、発掘調査や出土品の博物館への貸出業務など、埋蔵文化財に関する仕事を1から覚えていきました。

あれから10数年。まさかこのミュージアムの館長になるとは夢にも思いませんでした。不思議なものです。あの時の生徒と管玉に感謝しています。これから人も物との「出会い」を大切にしていきたいと思っています。

(伊奈和彦)



古墳の溝から出土した管玉



洗浄・乾燥後の状態 (長さ2cm程)



発掘作業中の筆者



収蔵庫にて朝日遺跡出土品 (赤彩土器・円窓付土器) の貸出準備

* 筒状の装飾品。朝日遺跡でも出土しており、基本展示室2で展示中 (重要文化財)

イベントレポート 収穫祭振り返り

11月20日 あいち朝日遺跡ミュージアム 開館1周年記念「収穫祭」を実施しました

当日は天候にも恵まれ、多くの来館者とともに、ミュージアム開館1周年を祝うことができました。

今回は、貝殻山をステージに見立てて、朝日遺跡応援ソング「ドッキドキ朝日遺跡」を子どもたちと一緒に歌って踊る催しや、西春日井農協、清須市商工会による地元商品の販売や、歴史の里マイスターの会、体感!しだみ古墳群ミュージアムによる体験講座を実施しました。

コロナ禍で制限のある中での開催でしたが、来館者に楽しく過ごしてもらうことができました。

また、朝日遺跡を応援する「朝日遺跡応援隊ファイブスターズ」の委嘱式もイベントに先立って開催されました。登壇したファイブスターズの面々は決意を新たに、さらなる朝日遺跡の知名度向上を誓いました。



ステージの様子はこちら



朝日遺跡応援隊ファイブスターズ委嘱式の様子



トークライブの様子

古代体験プログラムのお知らせ

土・日・祝 開催 会場: 本館・体験学習室

※プログラム参加は、当日ミュージアム受付にてお申し出ください。

弥生ムラづくりプロジェクト レポート

体験水田での稲作をとおして古代米の田植えから石包丁を使った稲刈りまで 弥生体験を実践しています。



大人の弥生土器づくり 2021年 12月12日 (日)



12月12日 (日) は大人の弥生土器づくりを開催。いつもの古代体験プログラムで実施するミニ土器とは違い、今回は実際に火にかけて炊飯するための「甕」。ひも状にした粘土を輪にして積み重ねていきます。ただ大きい土器は柔らかい粘土を重ねていくと重みで崩れてくることがあるため、まず下半分を作ったら、一旦時間を置いて乾燥させます。土台がしっかりしたところで残りを丁寧に仕上げ、貝殻やクシを作って好きな文様を付けたら完成! この後、自然乾燥をさせて土器焼きを待ちます。

土器焼き 2022年 1月23日 (日)



1月23日 (日)、年明け最初のムラづくりプロジェクトは土器焼成。木を組んで土器を置き、稲ワラをかぶせ、その上に泥を乗せます (ワラが飛ぶのを抑えつつ蒸し焼きにする効果あり)。

弥生時代に広く行われていた「覆い焼き」を実践しました。着火にはもちろん火起こし器を用いました。土器が焼ける間のお楽しみは、ホクホクの焼き芋。冬のイベントならではのですね。そして恐る恐る取り出してみればどれも割れずに焼成完了。大成功でした!

ショップグッズ紹介 【火起こし器】

今回、ご紹介するのは、「マイキリ式」の火起こし器。今は、家にはコンロがあったり、アウトドアではライターなどが大活躍していて、食べ物をも温めるのは簡単です。そんな今だからこそ、頑張って起こした火でご飯を食べてみませんか? きっと美味しさも格別ですよ。

・火起こし器 (大) ¥3,500 ・火起こし器 (小) ¥2,500
※写真のものは火起こし器 (大) となります

